talk! talk! talk! 作家、タレント・須藤元気さん

作家、タレント

須藤元気さん

格闘家を引退後も文筆家やパフォーマーとして活躍されている須藤元気さん。旅先では人や風景を心のおもむくままに撮影し、ご自宅では愛敬たっぷりの猫たちの姿をカメラに収めていらっしゃいます。そんな須藤さんに、写真に対する考え方や被写体としての猫たちの魅力について、お話をうかがいしました。

プロフィール

すどう・げんき 1978年、東京生まれ。高校時代からレスリングを始め、全日本ジュニアオリンピック優勝、世界ジュニア選手権日本代表などを経て、プロ格闘家に。現役引退後の2008年、拓殖大学レスリング部監督に就任し、2年目にして学生4大大会を制覇した。格闘家時代から「幸福論」を始めとするエッセイを出版。飾らない文章と心に響く名言が人気を集めている。また、映画「狂気の桜」で俳優デビューし、2009年にはパフォーマンスユニット「WORLD ORDER」を結成するなど、幅広い分野で才能を発揮している。

Beginning 出会い

写真があると文章がより面白くなる

写真を撮りはじめたきっかけは？

物書きとしてのデビュー作が、四国のお遍路をテーマにしたものでした。このときはフォトグラファーに随行してもらい、写真を撮ってもらったのですが、写真があると文章がより面白くなるんだな、と感じました。その後、南米をバックパック担いで横断したときに、初めて自分でデジタルカメラを持って旅をしました。それまでは遊びというか、レンズ付きフィルムを使っていたんです。

カメラを手に旅した場所で、印象に残っているのはどこですか？

海外の旅というのは、非日常的空間に行くことなので、どこも印象的ですね。南米の旅では、チェ・ゲバラが若い頃にバイクで旅したのと同じ道をたどりました。危険なこともたくさん体験しましたが、写真を撮っていても面白かった。僕はあまりカメラには詳しくないのですが、海外で撮影した写真は色が違うんですよね。写真はウソをつかない。その場その場の空気感が出るんです。ラテンの血というか、すこし荒んだ部分もありながら、情熱もあるような感じで。中央ヨーロッパを旅したときの写真は、全部燻し銀に写りましたしね。

最近、アメリカに行かれたそうですが、どのような写真を撮られましたか？

東海岸を縦断する旅で、ルート１（国道１号線）を通ってカナダの国境線からマイアミのキーウエスト、フロリダの先端まで行きました。面白い写真がいっぱい撮れましたよ。原子力発電所へ行ったり、イスラムのコミュニティに入ったり。普段行けないようなところで撮影ができました。格闘技の道場にも行ったのですが、イスラム教徒の女の子がヒジャブ（頭髪を隠す布）を身につけて、格闘技をやっているんですよ。

カナダからキーウエストまで行くと、写真の色もだいぶ違ってくるのではないですか？

空気感が違いますね。アメリカの国道の風景って、基本的にどこも一緒なんです。マクドナルドがあって、スターバックスがあって。でも、州によって法律も異なるせいか、雰囲気は全く違う。

写真を撮るときは、何か狙いがあって「さあ撮るぞ」と構えて撮るのですか？

「面白いな」「雰囲気が良いな」と思うとき、ふとカメラを取り出す感じです。はじめから「良い写真を撮ろう」と意識して撮ってはいないですね。撮ろう、撮ろう、と意識すると、旅そのものが楽しめなくなってしまうので・・・。あと、文章を書く時に、写真を撮っておくとその時の状況を思い出せるので、メモ帳代わりとして撮影している部分もありますね。

Pleasure 楽しみ

猫は下からあおり気味で撮るとかわいい

ご自宅で飼ってらっしゃる猫たち（プーちゃん、メイちゃん）をはじめ、旅先などでも大変かわいらしい猫たちの写真を撮影されていますね。

猫はいいですね。「あの人たち」には、本当に癒されます。昔から飼っていたわけではないのですが、近所に野良猫がいたので、彼らを見ながら「猫の生き方っていいな」と思っていました。食べたい時に食べて、寝たい時に寝る。カメラを向けても無視するし、呼んでも来ない。思い通りに行かない、飼いならすことができないところが、猫の最大の魅力だと思います。

だからこそ、良い表情が撮れたときの喜びもひとしおですね。猫を撮影するときは、やはり狙って撮るのですか？

そうですね。プーメイ（プーちゃん、メイちゃん）は今4才で、ずっと撮り続けていますが、飼い始めてから2〜3年で、「これ、かわいい！」というポージングはすべてしてもらいました。

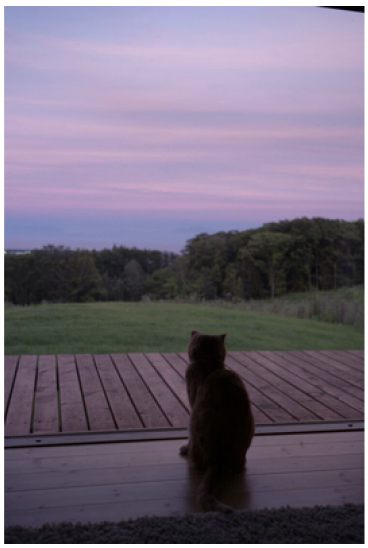
お気に入りのポーズや角度などはありますか？

猫は上から撮るよりも、下から少しあおり気味で撮る方がかわいいんですよ。口もとのこんもりした、モフモフした感じが。それから、猫って下から見ると、口角が上がっていて、笑っているように見えるんです。猫はほんとうに、これでもかというほど表情がよく変わるので、撮りがいがありますね。

ブログにオイスターバーの写真がありましたが、構図の取り方が素晴らしいですね。

以前は、構図について特に考えたことがなかったんです。知人から、僕の写真が「面白くない」「かっちりし過ぎてる」と言われて、「もっと遊んでいいんだな」と思うようになりました。それから次第に、写真に動きがないとつまらない、ということが分かるようになってきたんです。

Photo's 作品紹介



HIRDETÉSFELVÉTEL

Future これから

愛を持ってシャッターを押したい

今後、使ってみたいカメラはありますか？

いろんなメーカー、種類のカメラを使ってみたいですね。新しいカメラが手に入ったら、やはり旅をしたいです。次のミュージックビデオは中東か南米で撮ろうと考えているので、どこかそのあたりですね。あとは東京を撮りたいですね。僕は東京出身ですが、よく考えたら東京はまだあまり撮っていなかったので。たぶん、猫を探してしまうんだと思いますけど（笑）。

須藤さんにとって、写真とはなんでしょうか？

写真って、基本的に自分の投影ですよね。気持ちによって、出る画が違う。写真についてあまり詳しくはないけれど、それだけは言えます。プーメイを魅力的に撮ることができるのは、僕にプーメイに対する愛情があるから、それが映し出されているんです。自分でも、撮った写真を見ると「ああ、猫が好きなんだな」と感じますね。愛がなければ、技術があっても意味がない。All YOU NEED IS LOVEですよ。

写真の魅力はどこにあると思われますか？

写真って、説明がいらないところがいいんですよね。説明したら、それは写真の力が足りない訳ですから。東日本大震災の後、ボランティアでほぼ毎月現地に行き、その時のことをまとめた本を出しました。一緒に行ったメンバーが写真を撮ってくれたのですが、その時も、説明のいらない写真の力を感じました。

須藤さんが考える「良い写真」とはどんなものでしょう？

撮っている本人が気分よく、楽しく撮っているかどうかが一番のポイントだと思います。楽しくなければ、良い写真は撮れない。

今後、どのような写真を撮っていきたいとお考えですか？

どんなに良い写真を撮ろうと頭で計算をしても、良いものは撮れないですね。頭で考えると、メリットとデメリットで表現してしまうので、大したものは生まれないんです。損得をはずして、直感レベルで作り上げるものって、歴史に残る作品になると思う。僕は、カメラはあくまで趣味でやっているだけですけれど、計算して撮るのでなはく、プーメイを撮っている時のように、これからも愛を持ってシャッターを押したいなと思いますね。

須藤さんの個性と愛情あふれるお写真がこれからも楽しみです。ありがとうございました！

コンテンツトップへ戻る

※掲載している情報は、コンテンツ公開当時のものです。

株式会社 ニコン 映像事業部
株式会社 ニコン イメージング ジャパン

© 2019 Nikon Corporation / Nikon Imaging Japan Inc.